

# 保健だより 命の特別号

～徳永進先生のご講演を聞いて～

7月26日の徳永進先生の講演会を終えて・・・

中学生も高校生も命について考えてみる時間だったのですが、どのように感じることができましたか？

ひとりひとり違う感じ方があることは、知っていてほしいなと思いますし、これからも命について考え続けていくことが大事だと思います。感想には絵で表現してくれた人も、たくさん文章を書いてくれた人もいましたが、すべてのせることができませんので、みなさんが書

いてくれた文章を少し紹介させていただきます。

## ～ご講演の前にエッセイ集を読みおえての感想～

- 読んでみると少し暗くなってしまうような内容だったかもしれませんが、私たちが生きていくうえでとても重要なことなんじゃないかと思いました。私の今までの死に対するイメージは「暗い」「痛い」「怖い」などよいといえるものではありませんでした。でもこのエッセイを読み「死ぬということは確かに怖いかもしれない。でもそれがなければ「生きたい」と思えないんじゃないかと思いました。今を精一杯生きること、必死で生きることができるのは、いつか自分が死ぬことが分かっているから。「いのち」には期限があるからこそ、日常の何気ないことががんばれる。私は毎日を大切にいきようと思った。
- 生きていくうちに、つらいことがある、楽しいこともある。だから私はどんなことがあっても精一杯生きたいと思う。生命は残酷なことだけでもきれいなことだけでも語れない。両方ある。
- 命はもろいから大切にしていかななくてはいけない。
- 良いことが幸せなんじゃなくて悪いところも全部あわせて輝いていると感じるんだと思います。
- いのちは怖いけど、よいものでもあり日常というものの自体が大きな生命力をもっていると分かった。
- 私はなにかのいのちが、他のいのちを輝かせるのはすてきなことだと思いました。
- 「黄金の詩」を読んで、自分たちも日々いろいろな物の命をいただきながら、生きているので、1日1日いのちの大切さに感謝したい。
- 自分とは違う考え方で、そういう考え方もあるんだなーと思った。
- 生きているということは、いろいろな「道」が動く。
- 人間はとても簡単に命を奪うことのできる生き物だと知ってとても怖いと思いました。
- 今私が生きていることが不思議だと思った。
- 人も動物も魚も虫もどんなものでも、自分より弱い何かがいないと生きていけないと思った。

## ～あなたが考える命って何ですか？～

- 一生に1度しかない大切なもの
- 寿命 ・エネルギー ・受け継ぐもの
- 一つしかないもの
- 心臓 ・どの生物にも宿っている
- 世界共通で誰でも持っているもの
- 生きるもの ・こころ
- 自分が生きる為に必要なもの
- 自分にしかない死ぬまで背負っていくもの
- 怖いもの
- なくなったらすぐこまるもの
- 小中高生のあこがれへ近づくため犠牲となりうるもの
- 壊そうと思えば簡単に壊せるもの
- 自分の両親やご先祖様がくれた希望
- 輝き
- いつか死ぬ
- 一番価値のあるもの
- 人が生きるために持っているもの
- 生き物が生活していくのにとっても必要な物
- 人に欠かせないもの
- 大切なもの
- からだの中で一番あたたかいところ
- 生きる為の力だと思ふ
- 一生に一度しかない大切なもの
- 一度しか使えない
- いつも働いている
- 1つであるが1つではない
- 人権
- 自分のものも、他人のものも大切にすべき
- 「感謝」
- 換えのきかない大切なもの
- 生命力のこと
- いつかくちはてるもの
- 自分が存在することを他者や環境に証明すること
- すべての原点で、すべての原動力
- 人の支えがあってこそなるもの

- 日常生活の中で突然生命の誕生と終焉に出会うことが有るのだと思った。
- 何の為にいのちがあるんだろうか。それらがわかるわけではない。身近なようで身近じゃない、分かっているようで分かっていない。それがいのちでいいじゃないですか
- 自ら命をたつ人にもいろいろな事情はあるかもしれないけど、生きたくても生きられない人がいるのに、生きられるのに生きたくないというのはもったいないと思いました。
- 命を一つ自分の中に持って生きているんだなと読んで僕は分かりました。
- 「〇と×が混ざったら不思議な空間ができる」と言っていたことについて、正直どういう意味なのかは難しかった感じでよくわからなかったけれど、何かがすごいと思いました。
- 絞首刑をしなければいけない程の犯罪がなくなればいいのと思った。
- 命があればそれだけでたくさんことができると知った。
- 「人間は生命尊重の何倍もの力を入れて生命を処理してきた」という見出しに衝撃を受けたし、その通りだと思った。
- 一番最後の「命はきれいな言葉やざんこな言葉のみでは語れない」というところが確かになーと思った。
- 「生きる」の詩「人を愛するということ、あなたの手の温もり、いのちということ」にも表れていると思うが、人には「人を愛する力、愛される力」があり、それがいのちだと思う。
- とても深くて、難しかった。「いのち」とはどういうものなのか分からなくなった。
- 車にひかれるひな鳥の話で、動物の死体が道路にあたりすることがあたりまえになりつつあったけど、それはおかしいことで、車が走っただけで動物達の命は一瞬で消えるのだと考えさせられました。



## ～徳永先生のご講演を終えた後の感想～



- 重要なことは「〇も×もつけられない」ということ。
- 正しいか正しくないかのどちらかを選ぶのではなく、「分からない」や「△」などで表すとより考えが広がる。
- 「死ぬ」とか「亡くなる」とかっていう暗い言葉を、たくさん使っていたので気持ちが重い感じがしたが、最後まで聞けた。
- 死を目前にした時に「ありがとう」「楽しかったよ」など感謝の言葉を言えるようになりたい。
- 自分の思っていることを他人に言えるようになりたい。
- 「死」は私たちの周りにたくさんあるということがわかりました。
- 大切なことははっきりとした答えが出ないということ。
- 人の命のあり方や身近な命のあり方に気付かされました。
- 谷川俊太郎さんの詩をもっと知りたくなった。
- 高2くらいの選択はサイコロをふるような感じで、1がよくても3が出る。でもその時は3に行くべしということが分かった。
- 命の大切さと自分自身の主張を大切にすることを学んだ。
- 病気になっても自分の叶えたい夢や目標を持ち続け、努力していた人がたくさんいることを知った。
- 今という時間を過ごしている友達・親・先生といろいろな目標をたて、それを実行し次の目標や夢につなげていきたいと思った。
- 命はただ最後になくなってしまふものだと思っていたけど最初と最後までの間がとても大切なのだと思いました。
- 〇や×を使うのではなく△を使うというが、ちょっとわからなかったけれど、わからないときは△を使うというのが理解できた。
- 場合によっては「生きる」ことも〇にはなるし×にもなる。「死ぬ」ということも時には〇で時には×になると気付かされました。
- どんな時でも自分の考えをつらぬいたりするのもいいのかなと思った。
- やっぱり命とはわからない。でもいのちについてちゃんと考えていけば分からなくてもいいと思った。
- 「いのちって何？」という問いに対しての答えは出なかったし、今はまだ正直考える意味もよくわかりませんでした。
- 死ぬのは必要なことだし、当たり前のことだから「生きること」も「死ぬこと」も特別なことだとは思わない。
- 表面だけじゃなくて、もっと内側からも、いろんな角度から見ても、あせらずゆっくり考え、答えを出すのは何年かかってもいいし、白黒はっきりつける必要もないのだと思った。

- 全体的に話はあまりわからなかったけれど、死ぬのは×で生きるのは〇などはないということが印象に残りました。
- 親分の優しさ、思いやりが心に響いた。
- 心に残ったのは、死んだ人に気持ちを伝えることです。そこにじっと立ったりぼやっとせず感謝の気持ちを伝えることです。特に手を握ってあげて「いままでありがとう」など自分の気持ちを伝えてあげるのが大事だなと僕も思いました。
- 私は海に〇をつけたけど本当はよくわかりませんでした。海は3月11日にたくさんの人命を奪ったけれど、毎日たくさん生物の命もつくりだしていると考えたら△になると思いました。あの問題になぜ「お母さん」と出てきたのかわかりませんでした。
- 生きているから死ぬのも当たり前なので誰かが死んでも深く悲しまなくていいということがわかった。
- 生きていると悲しくなることとがたくさん起きるということを改めて知りました。
- 〇×テストの時にまわりの友達のと違って、変えた方が良かったかなあと思ってしまったのでまだまだかなあと思います。
- 「戦争」「死ぬ」「いじめ」などマイナスなイメージを持つ言葉ってというのは、今日のテーマであった「命」や「生きる」ってことを語るんだったら「×」にするんじゃなくて、「〇」でもあったんだなと思った。
- 「錯覚や誤解をしながら生きる権利がある」という言葉が心に残りました。誰もがいのちをもった時から自己主張をする権利を持っている。
- 僕は講演を聞いて思ったことは人間の考えは自由であるということです。何が正しいとかマスメディアが言っているということがあっているということではなく、自分の感じたことを率直に表現すればいいと感じました。
- 誰もが周りから死を体験している。
- 生命というのは、素晴らしいものだけど、あっけなく終わりをむかえてしまう生命が身の回りに多いと思った。
- 死ぬということは〇なのか×なのかわからない、将来、生命の関わりのあるところにつくととても大変そうだなと思った。
- 僕たちが普段たべているもの、していることが死と対面していると思うとおそろしい。
- 表面だけじゃなくて、もっと内側からも、いろんな角度からも見て、あせらずゆっくり考え、答えを出すのは何年かかってもいいし、白黒はっきりつける必要もないのだと思った。